Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-06-04

巻頭言

北野, 耕平

(Citation)
海事資料館研究年報,20

(Issue Date)
1992

(Resource Type)
other

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005654

巻　頭　言

神戸商船大学海事資料館長　北　野　耕　平

1967(昭和42)年9月、各界の拠金をもとに立派な海事資料館講堂が完成して以来、ちょうど満25歳を経過した。展示品には古くは高等商船学校時代の資料から、創学以来半世紀に近くなった商船大学時代にかけて、瀬戸内海をはじめ日本各地のものがある。いま各資料を目にしてみると、深江丸での海事調査など、収集に精根を傾けられた先輩方の苦心とエピソードが偲ばれる。それにしてもよくぞ戦後の海事技術革新期に、各地の造船所などで廃棄されようとしていた木造船資料を保存する機会を作られたことと感謝にたえない。ここには日本海運史の貴重な切り口がある。

最近各地では博物館、資料館が盛んに建設されている。同時に既設の館に対しても、そのあり方と意義が改めて問われようとしている。本学でも海事資料館の内容刷新を要請する声は高い。今までは収集と保存が優先してきたが、これからは全国でも数少ない“船の博物館”としての特色を出すために、一層の整備、充実と活用が必要となろう。年度末、資料館講堂の改修工事にともなって、資料館展示室も25年ぶりに内装の更新、ビデオ室の設置、展示解説の充実の希望が実現することになった。新時代の要求に少しでも多く対応できるようこれからも努力していきたいと考える。

本年報には、渋谷文庫の内容について、石谷清幹大阪大学名誉教授を代表とする各位の整理と研究の成果を紹介して頂くことができた。旧海軍の造機技術を中心として、造船、製鋼、原子力、電気、工場管理などの史料群で、その概容と価値を認識、評価願えるものと欣快にたえない。その他論考をお寄せ頂いた中小路駿逸追手門学院大学教授、半澤正男前本学教授、香川県高松への海事調査を実施してくださった資料館顧問、専門員各位に厚くお礼を申し上げたいと思う。